

出張型わうくらす 1時限の授業例

【目標】

- ① 動物が命あるものであり、気持ちがあることを理解する。
- ② 野良犬・猫、捨て犬・猫の現状を知り、終生飼養の必要性について理解する。
- ③ 犬の気持ちを考えた接し方を実践することができる。

【進行】

時間 (分)	内容	発問、具体的な流れ
3	参加者の紹介と注意事項	参加したメンバーの紹介。 犬はたいへん耳がよい動物です。静かにして下さい。
10	「生きている証拠」を考える 心音を聞く	「みなさんは生きていますか？」 「生きてるってどんなこと？」 ・息をする・食べる・寝る・遊ぶ・勉強する ・うんちをする・走る・心臓が動く 「お互いの心臓の音を聞いてみましょう」 ・グループに分かれてお互いの心音をきく 「生きているのは人間だけですか？」 ・動物も人間も同じように生きている。 ・犬の心音を聞く（心音拡張器で）
15	犬の気持ちを考えた接し方を知り、実践する。	「生きているということは、ころがあります。」 「友だちになろうとするとき、相手の気持ちを考える事が必要です」 「犬の気持ちを考えてみましょう」 ・イラストをみて犬の気持ちを考える（よろこんでいる、おこっている、こわがっている） ・接することができる犬を説明する 「知らない犬が近づいてきた時の対応をしてみましょう」 ・やわらかい電信柱になる。 ・児童の間を犬が通る。 「犬と友だちになってみましょう」 ・接し方を実践する。
15	犬や猫と人のかかわりと捨て犬捨て猫の現状を知る。 (パワーポイントで作成したスライドを使って説明します)	「犬や猫はどのくらい昔から人と暮らしてきたか、知っていますか」 「とくに犬は使役する目的に合わせて改良されてきました。近年では体の一部として盲導犬などの身体障害者補助犬がいます。多くの犬猫が使役する目的から家族の一員として暮らしています。」 「しかしながら、野良犬・野良猫がいます。彼らはもともと人が飼われていたのが捨てられたのです。そのような犬猫が保健所やセンターに収容されます。どのような理由で捨てられたと思いますか」 「どうすれば、捨てられる犬や猫がいなくなると思いますか？」
2	まとめ	「動物も生きている」 「動物にも心がある」 「最期まで責任をもって飼う」

【準備物】

(学校) 黒板 (ホワイトボード)、パソコン (パワーポイント) とプロジェクター
(センター) USBメモリ、犬1頭以上 (児童数による)